

# 授業

In My Case | 1・2年次



### 1年次

発表を通して話し方を学ぶ「プロゼミ」

正しい話し方から効果的なアイコンタクトの方法までを学修。もともと、「よい話し方」について考えることは好きでしたが、プロゼミを通して、考えをより深め、人前で話すことへの自信を深めることができました。



プロゼミで作成した企画書

### 2年次

話し方をスキルアップするためのコツを知る

日本語のコミュニケーションを学ぶ授業では、先生が決めたテーマについて話をします。これまでは上手に話すことに集中しがちでしたが、聴く人がどのような気持ちか、聴き手にまで意識を広げて話せるようになりました。



コミュニケーションに自信をつけて就職活動の励みに

授業を通して、コミュニケーションに関する知識や能力を身につけることができました。今後は、就職活動にも応用して、面接のときに適切な受け応えができるスキル、対応力を身につけていきたいです。



## シンボル表現論

吉澤 京子 教授

### 日常生活で目にするマークやシンボルの役割を学ぶ

私たちが身のまわりで、あるいは多くの人々が訪れるイベント会場などで目にするマークやキャラクターをとりあげて、コミュニケーションにおける役割を学ぶ授業です。さらに、クリスマスや新年など季節の行事に見られるシンボルについて、その文化的な背景を探究します。画像を見るだけでなく、ときには実物を手にとり観察することを通じて、グローバル化が進むこれからの社会を生きるために必要な、生きた知識を身につけます。

## 日本語コミュニケーション論

土屋 博映 教授

### 理論と実践で、文章の達人に！

日本語の文章を正しく速く書けるように導きます。単語の使用法、文法の生かし方のコツを、楽しくわかりやすく講義します。そして、楽しくたくさんレポートを書き、丁寧な添削を受けてもらうことにより、誰もが「文章の達人」になれます。

## コミュニケーション文化概論

田中 浩史 教授

### SNSなど身近なテーマを探究

この世界のあらゆるものは「コミュニケーション」の産物といえます。なぜこの講座で答えを見つけて下さい。非言語、動物、マスコミ、SNSといった身近なテーマを、映像資料や新刊図書などを駆使して講義します。

# ゼミナール

ゼミナールは、少人数のメンバーで行われる対話型の授業スタイル。調査・研究・発表の方法を学び「演習」とも言われます。



## コミュニケーション文化学演習

奥田 洋子 教授

### 絵や文学を分析・解釈し、欧米式読書技術を修得

このゼミナールの目的はひとことで言って「欧米式読書技術」を修得することです。これには読んだ後、自分の意見を論文にまとめる作業も含まれます。一人一人が作品中のどの技巧に注目して分析・解釈しても構いませんが、それは必ず文中の言葉(=事実)で裏づけられていなければなりません。このようにしてまず絵を、次に文学を分析して意見交換し、同じ作品でもいかに多くの解釈が成り立つかを知り、異なる見方への寛容性を育てます。

#### 卒業論文・卒業研究のテーマ (2014年度/一部抜粋)

- 世界に広がる英語  
—現代の英語コミュニケーションの実態から考える—
- ネット依存症と対人コミュニケーションの関係性
- 日常に溢れるオノマトペ
- ヒット曲からみた言葉の変化  
—歌謡曲からJ-POPまで—
- 服装とコミュニケーション—服装がもたらす印象—
- ロックフェスにおけるコミュニケーション  
～ロックフェスの形態とこれからのフェス
- 日中昔話比較考察—昔話から学ぶ教育—
- 人間関係改善におけるコミュニケーション  
～カテゴリズドの可能性～
- 異文化コミュニケーション  
—宗教から見えてくる社会問題—
- 子ども教育番組におけるキャラクターの視覚効果
- 日本人の求める正しい敬語とは何か
- マンガとアニメーションから学ぶ人生  
—心に残る名言たち—

### In My Case | 3・4年次



#### 3年次

敬語や手紙の書き方は社会に出て役立つ

私は中国から日本に留学し、3年次に跡見に編入したのですが、授業の種類が豊富で驚きました。特に敬語の使い方や手紙の書き方など、社会に出たときに役立つ日本語の知識を身につけることができてよかったです。

#### 4年次

ゼミナールでは中国と日本を比較研究

中国文学を専門とされる池上先生のゼミナールで中国と日本の女性史や文化について研究。二つの国がどのように影響しあってきたのか、参考文献をたくさん読み、日中の若者文化と政治意識の比較をテーマに卒業論文を書きました。



参考文献として読んだ本の数々



卒業後は大学院へ。将来は東アジアをつなぐ仕事がしたい

卒業論文では日本と中国の若者文化と政治意識を比較しました。大学卒業後は大学院に進学し、東アジアの政治経済について研究する予定です。将来は東アジアの国々の懸け橋となる仕事ができればいいと思っています。